

4. ニッケルの国際市況と需給動向（2007年5月まで）

希少金属備蓄部

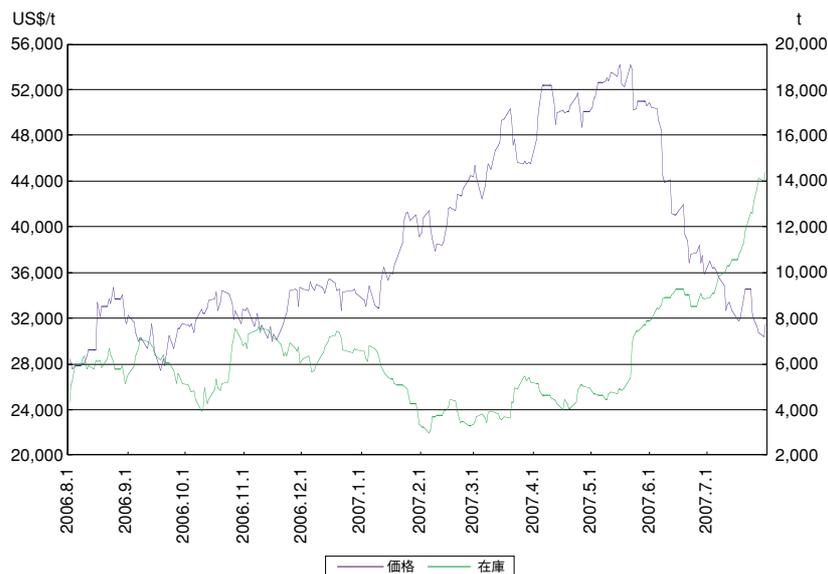
1. ニッケルの国際価格は、6月上旬のLMEのニッケル取引規制強化を契機に投機筋の売りが進み暴落、6月下旬には40,000US\$割れとなり、その後も需給緩和と在庫増加を材料に続落、7月末日現在31,550US\$。
2. 2007年1～5月の需給バランスは、19.9千tの供給過剰。LME在庫量は、5月下旬より回復傾向となり、7月末日時点で14,412t。
3. 国際ニッケル研究会によると、2007年の世界のニッケル需給は、約6.4万tの供給過剰と予測。欧州に始まったステンレス鋼減産の動きは、アジア各国にも広がりつつあり、クロム系ステンレスへの代替も進展していることから、需要は鈍化しているものと見られる。ニッケル価格については、今後は実需を反映した相場に落ち着いていくとの見方が強い。

1. 国際価格（2007年6～7月）

ニッケルの国際価格は、6月上旬、LMEのニッケル取引規制強化を契機に、投機筋の売りが進み暴落。6月下旬には40,000US\$割れとなり、その後も需給緩和と在庫増加を材料に続落し、7月下旬には30,000US\$近くまで下落、7月末日現在31,550US\$。

5月下旬より、ステンレス鋼減産見通しや在庫増加などから軟化したニッケル国際価格は、6月初め50,000US\$台をつけていたが、LMEが投機筋による行き過ぎた相場を修正するため、6月7日、ニッケルのみを対象として、大口市場参加者に対し、現物と先物の価格差に制限をつけるレンディング規制（規制対象になると、一日当たり最大でも現物価格の0.5%しか利益を得られない）を拡大したのを契機に、投機筋

の売りが進み、一週間に9,000US\$下げと過去最大の下げ幅を記録。その後も、ステンレス鋼減産による需給緩和と在庫増加を材料に、投機資金の流出が続きさらに続落、6月19日には約4か月振りに40,000US\$割れとなった。その後も下落の一途を辿り、7月16日には32,000US\$を割り込み、一時34,000US\$台に回復したものの、7月下旬には30,000US\$近くまで下落、7月末日現在31,550US\$となっている（図4-1）。



ニッケル	2006年					2007年						
	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
LME在庫 (t)	5,358	5,124	6,816	6,066	6,594	3,366	3,342	5,232	4,980	7,914	8,856	14,412
平均価格 (US\$/t)	30,744	30,131	32,703	32,114	34,570	36,811	41,184	46,325	50,267	52,179	41,719	33,426

図4-1 ニッケル価格と在庫の推移

出典：国際ニッケル研究会

2. 需給 (2007年1～5月)

- ① 2007年1～5月の鉱石生産は10.8% (65.4千t) の増。一次地金生産は10.5% (58.7千t) の増。消費は5.4% (30.7千t) の増。
- ② 2007年1～5月の需給バランスは、19.9千tの供給過剰。
- ③ LME在庫は、歴史的低水準が続いていたところ、5月下旬より回復傾向となり、7月末日時点で14,412t。

〈需要〉

2007年1～5月のニッケル消費は596.9千t(金属純分、以下同様)で、前年同期比5.4% (30.7千t) の増となった。消費量第1位の中国は36.6% (34.0千t) の大幅増、第2位日本は2.9% (2.1千t) の増、第3位米国は1.2% (0.7千t) の増であったが、第4位ドイツは2.3% (1.0千t) の減、第5位韓国は2.8% (1.1千t) の減となった。

〈供給〉

2007年1～5月のニッケル鉱石生産は670.0千tで、前年同期比10.8% (65.4千t) の増となった。最大生産国のロシアは3.8% (4.4千t) の増、第2位カナダは1.6% (1.7千t) の増、第3位インドネシアは31.5% (18.9千t) の増、第4位豪州は5.8% (4.2千t) の増、

第5位のニューカレドニアは23.5% (9.8千t) の増であった。2007年1～5月の一次ニッケル地金生産は616.8千tで、前年同期比10.5% (58.7千t) の増となった。最大生産国ロシアは0.7% (0.8千t) の増、第2位中国は115.3% (51.5千t) の大幅増、第3位日本は3.9% (2.7千t) の増、第4位カナダは5.9% (3.8千t) の増、第5位豪州は2.1% (1.0千t) の増であった。

〈需給バランス〉

2007年1～5月の需給バランスは、19.9千tの供給過剰となっている。

ニッケルの金属取引所在庫は、2007年5月下旬より増加傾向となり、7月中旬には、約1年ぶりに10,000t台にまで増加、末日時点で14,412t (表4-1、4-2)。

表4-1 ニッケルの需給状況

単位:千t、金属純分

ニッケル	2006年												1～12月計
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
鉱山生産量	118.2	115.6	121.1	126.7	123.0	119.5	117.2	123.5	120.8	130.1	129.1	129.4	1,474.2
一次地金生産量	115.1	107.9	111.2	111.8	112.8	107.5	102.1	109.7	114.5	118.7	118.0	121.3	1,349.8
消費量	111.4	108.8	113.3	115.8	116.9	117.1	117.2	119.2	117.0	121.0	119.4	118.7	1,395.8
需給バランス	3.0	-0.9	-2.1	-4.0	-4.1	-9.6	-15.1	-9.5	-2.5	-2.3	-1.4	2.6	-46.0
ニッケル	2007年						前年同期比 (%)						
	1月	2月	3月	4月	5月	1～5月計							
鉱山生産量	130.4	127.2	141.3	135.0	136.1	670.0	10.8						
一次地金生産量	123.3	113.3	124.8	130.5	124.9	616.8	10.5						
消費量	121.8	117.8	122.7	117.9	116.6	596.9	5.4						
需給バランス	1.5	-4.5	2.1	12.6	8.3	19.9	—						

出典:国際ニッケル研究会

表4-2 LME国別ニッケル在庫の推移 (2006年7月～2007年6月)

単位:t

国名	2006年						2007年					
	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
ベルギー	60	60	60	60	—	—	—	—	—	—	—	—
ドイツ	774	246	150	150	132	114	18	18	—	—	—	—
イタリア	48	30	30	—	—	—	—	36	72	60	108	66
韓国	1,374	834	1,260	2,706	2,640	2,364	2,070	1,776	2,004	1,890	2,928	3,414
オランダ	642	3,414	3,144	3,030	2,268	2,826	204	216	1,986	1,884	3,474	4,080
シンガポール	30	216	150	246	270	324	546	750	804	726	468	576
スウェーデン	660	18	18	42	150	294	90	—	—	330	408	120
英国	456	12	12	12	12	12	—	—	—	—	24	—
米国	114	528	300	570	594	660	438	546	366	90	504	600
合計	4,158	5,358	5,124	6,816	6,066	6,594	3,366	3,342	5,232	3,342	7,914	8,856

出典:国際ニッケル研究会

3. 今後の需給見通し

国際ニッケル研究会によると、2007年の一次ニッケル地金生産は8.9%増の147.8万t、ニッケル消費は1.5%増の141.4万tとしており、需給バランスは約6.4万tの供給過剰と予測している。また、中国におけるニッケル銑鉄の生産増加が、今後さらに加速するとの見通しを発表している。

業界紙、メディア等によると、欧州をはじめとするステンレス鋼減産の動きは、アジア地域の主要なステンレス鋼生産国にも広がりつつある。また、高値が続いていたニッケル価格の大幅下落により、需要家に先安感が広がり買い控えているとの見方もある。さらに、クロム系ステンレスへの代替も進展していることから、需要は鈍化しているものと見られる。

ニッケル価格については、LMEのニッケル取引規制強化により、行き過ぎた相場は沈静化され、今後は実需を反映した相場に修正されていくとの見通し。需給緩和と在庫の増加を材料に、短期的には弱含みとの見方が強い。